

私たちの願いは

核兵器のない平和な社会の実現

私たちが受けた悲惨な体験を

繰り返させないこと

堺原爆被害者の会

堺原爆被害者の会は 1965 年（昭和 40 年）に設立し、昨年 50 周年を迎えました。平成 28 年 3 月 31 日現在堺市在住の被爆者は 525 人、そのうち 347 人が当会に在籍しています。

戦後 70 年を迎え会員の平均年齢は 80 歳を超え、高齢化と健康上の問題で活動が難しくなっており、被害者の子供たちである二世の会の協力を得ながら活動しています。

原爆展の開催

原爆の実態、核兵器の恐ろしさ、悲惨さを市民の皆様を知って頂き、二度とこのようなことを起こしてはいけないと、平和への啓発活動を行っています。

語り部

原爆展や各種イベント、学校、会合などの場で体験談を語り、遠い過去の出来事ではない、生々しい現実の話として皆様に聞いて頂きます。

視聴覚資料の作成

被爆者の高齢化により語り部のできる人が減少しています。しかし何とかして原爆の実相を伝えたい。そのために紙芝居、ビデオ、絵画などの視聴覚資料を作成しています。

被爆の実相を後世に伝えたい

「実相」とは、真実のすがたです。ヒロシマ・ナガサキで被爆者した私たちが語る生の証言です。あの惨禍を二度と繰り返させない。被爆の実相を後世に伝え残したい。それが私たちの活動です。核戦争は人類を滅ぼし、堺の街も潰滅するからです。それゆえに、堺市も「非核平和都市宣言」(*)を決議しています。

語り継ぐことの危機

しかし、被爆者の平均年齢はすでに 80 歳を超えました。語り部ができる人は著しく減ってしまい、このままでは貴重な体験を語れる人は絶無となってしまいます。原爆被害を継承するために残された時間はほんのわずか、これが現状なのです。

私たちの活動を一緒に支えて下さい

そこで、私たちの体験や原爆の基礎知識を DVD と紙芝居にまとめて次世代に託そうと思います。DVD は堺市立の小中高 137 校への配布、子どもたちの平和学習への活用を目標としています。紙芝居は被爆2世や心ある市民が被爆者の体験を語り継ぐ大切な素材です。

こうした活動には、資金面を含めて広く市民の皆さまのご協力が必要です。空襲から復興した堺の街を守り、ともに平和な社会を築いていくために、どうか皆さまの物心両面でのご支援をお願い申し上げます。

※堺市の非核平和都市宣言

私たちは世界ではじめて原爆の洗礼を受けた国民として再び「広島」「長崎」の惨禍を繰り返させてはならない。平和な社会の実現を願う全市民の声に耳を傾け、すべての核兵器が廃絶されるまで行動することを確認し、ここに本市を「非核平和都市」とすることを宣言する。

(堺市ホームページより抜粋)



協賛金 一口 3,000 円

お振込み先

三井住友銀行 堺支店

口座番号 普通 7830349

口座名 被爆の実相を後世に伝える実行委員会

ホームページもご覧下さい。

<http://www.sakai-genbaku.org/>

堺原爆被害者の会

被爆者が描いたヒロシマ

写真は故牧野俊介氏が 1945 年、被爆翌日の広島へ救援に入り惨状を目撃、後世に伝えようと多くの絵を残した内の3枚。

